Vol.38
ASAKURA CONFERENCE OF NURSING CARE INSURANCE BUSINESS
朝倉介護保険事業者協議会
会報
朝倉介護保険事業者協議会　会報
Vol.38　平成23年12月30日発行

新春スペシャル対談

with　吉田宏さん(前福岡市長)・林裕二さん(福岡県議会議員)

恒例となった新春対談も今年で３回目。今回は、前福岡市長（第34代）の吉田宏さんと地元県議会議員の林裕二さんをゲストにお招きし、当協議会会長・今村順氏等との対談が行われた。

吉田氏　私は最近割と介護施設に行く機会があって、今、福岡市内にＮＰＯが７００くらいあるんですけど、その中のひとつに、内容は簡単なんですが、福祉施設に歌手を連れて行って歌を聴いて頂くというＮＰＯを手伝っていまして、行く先々が介護施設だったり障がい者の施設だったりするんです。つい２週間前くらいも柳川の介護施設に行きましてね。凄いことに平均年齢８３歳で、大半の方が車椅子。３分の２くらいは、ほとんどコミュニケーションを取れない感じなんですよね。認知症もあったりとかね。

今村会長　だいたい今は、明治後半４０年代から大正ぐらいの１００歳前後の方たちがもの凄く元気ですね。逆に今７０～８０代という人の方が状態的には厳しい疾患を持っていらっしゃったりします。明治・大正の人たちは頭もしっかりされているし、ご飯もしっかり召し上がる。

吉田氏　先日、伺った施設は、ぱっと見た限り女性が８割。若い人は６０代もまれに入ってあります。車椅子生活でね。そこで、歌手と一緒に昔の曲を歌うんですが、手拍子すらほとんどの人が打てないわけですね。今の高齢社会の現実を目の前にすると、大変なことが今から起きてくるんだなとつくづく思います。

今村会長　昔はそういうお年寄りの方は、ご自宅で多世代でお世話してというのが当たり前なんですけど、介護が社会保障のひとつになったから、それは家族がすべきことではなくて、権利としてお世話してもらうという形になっているので、家庭観とか家族観とか、そういう価値観が大きく変わってきたのが今の姿なんじゃないかなと。

吉田氏　そういうことですね。介護を家庭から切り出して社会化したわけですが、それを社会構造として今からずっと支えていくといっても、若い人はどんどん少なくなるわけだし、日本の経済力だってどうもおぼつかない。どうやっていくんだと。

今村会長　結局、収容型のサービスはお金が掛かるからもう増やせない。今度はどうするか。みんな外に出て行くと。医療もそうですよね。もうひとつは高齢者の住宅施策。お年寄りの住みやすい建物はどんどん建てましょうと。今、国交省が補助金を出してますから、急速に増えていて、そこに外付けの医療や介護サービスが入っていくと。そんな風に変わっていくんでしょうね。

吉田氏　最近読んだ本で、楡周平（にれ・しゅうへい）さんの「プラチナタウン」というのがあるんですが、東北の田舎町出身で、世界中を相手にしている大手の商社マンが田舎町に戻ってきて町長さんをやって、その町をシルバータウンじゃなくて、さらに上のプラチナタウンにしていくという話なんですが、そこには医療施設を、

協議会ホームページへ今すぐアクセス！ http://www.asakura.in

朝倉介護　　検索

特別記事

新春スペシャル対談　with　吉田宏さん・林裕二さん

はじめ、高齢社会に対応できるいろんな施設がくっついてて、それがひとつの町になりますという。確かにそういう町が今からいっぱい出てこないと、受け皿は無いしね。

今村会長　今、サービスつき高齢者住宅というものが増えています。そこに医療モールを入れ込んだり、病院を付けていって、もうひとつ上にはデイサービスがあってヘルパーステーションがある。そしてオンコール体制になっている。そこに住んでいれば全部完結するというものですね。

林県議　それは負担はどのくらいなんですか？

今村会長　外付けサービスについては介護保険でだいたい月２～３万くらいでしょうか。高齢者住宅は普通の不動産業ですから、その会社が決める月額ですよね。今、お年寄りが入居されるというと、不動産会社は「家賃を滞納されるんじゃないか？」とか「お一人で亡くなったら困るな」とかで入居を拒否したりとか、敷居が高くなっている。そういうハードルも併せて下げなさいというのが国のルールに則った形ですね。お年寄りが入りやすく、いろんなサービスが付いてくると。

吉田氏　僕の友人が宮崎で今仰ったようなものをしているんですが、利用者からすると、年金と介護保険のお金をそこに当てると、大体そこで暮らせるくらいの制度設計をしてるんですね。貯金をそんなに減らさずにいいと。３食付に家賃と介護とで１０数万ですね。

今村会長　あとはその人たちが重度化したときに、本当に外付けのサービスが巡回型で機能するのか、そこに働き手がちゃんと来るのかということが問題ですね。

林県議　日本はもの凄い長寿国になりましたが、健康じゃなくなってから生きている平均寿命で、寝たきりとか、いろんな部分の期間が５年とか７年とかあるんじゃないですか。状態を見ると、ただ生きているだけという年数が日本は諸国と比べるとものの凄く長い。医療が発達したものですから、今の終末の生き方の倫理観もひとつ大きな問題として出てくるかもしれません。

矢野広報部長　行き着くところは、例えば意識もなくて寝たきりの方ばかりが病院にいて、まだ助からないといけない人が順番待ちをするということにならないのかと。

今村会長　在宅に返しましょう、それから療養病床は無くしましょう、という考え方はそこでしょうね。病院も急性期に特化してやっていきましょうという風に変わって、そのために、ずっと入っておられる人たちを在宅に返して巡回型で対応するという形で。

矢野広報部長　在宅でターミナル、訪問看護と言いながら、例えば、家から病院まで車で３０分とかあり得るわけです。現実的にターミナルケアをすると言っても、患者の方は、何分越しに痛い痛いという風になるわけですよね。そのためにお医者さんがずっと横に付きっきりで、看護師さんも付くというわけではないんですから、やっぱりどこかに限界が出てくるような感じがします。実は、ここにいる広報部・藤原くんのお母さんがこの頃ガンで亡くなったんですが、ずっとターミナルケアで、それから自宅でお亡くなりになったんです。

広報部・藤原　半年前に分かってから入院していたんですが、最後、一ヶ月間だけは在宅で緩和ケアをしていました。抗がん剤がもう効かないということもあって、本人の希望もあったものですから。姉が近くに住んでいるので、昼間は姉が、夕方からは自分がという交代で介護をしていました。最期は姉が看取ってくれましたね。

矢野広報部長　お兄さんもいますが、香川県なものですから、しょっちゅうは来れません。お姉さんも小さいお子さんがいらっしゃるし、なかなか大変。それで、彼も仕事が大変ですけれども、早く帰ったり、自分で調整して午前中は休んで自宅で仕事してもいいよという話をしましたら、家では痛がるお母さんの背中をさすったりで仕事にならないと。

特別記事

新春スペシャル対談　with　吉田宏さん・林裕二さん

林県議　うちは親父が寝たきりになりましたけれども、兄貴が病院なものですから、（お世話を）周りに頼みましてね。私もこんな仕事をしているし、嫁さんも軽い脳梗塞をやったりしましたから、助かりましたね。終末ケアやら在宅介護というのは一切なかったです。もの凄いことだろうとは思います。

広報部・藤原　うちは母の頑張りもあって、介護する家族側としては、一般的な介護現場より恵まれた状況だったと思いますが、それでもこれだけきついものなんだなと。もっと重い症状の方を支えるご家庭は相当大変なんだろうなと思いました。

林県議　徘徊があるようなお年寄りがいる家庭とかですね。これはもう今村さんとか矢野さんとかのところで見て頂かないと限界がありますよ。そしてこれが老老になってくると家庭破壊ですもの。もうやっぱり独りで逝ってしまおうかと考えたりすると思いますね。

今村会長　昔は認知症が出る前に皆さん・・・というのが、今は認知症が出るまで長生きしていらっしゃるというのがありますね。先ほどのお話にもありましたが、終末期の倫理観とか、そういう話になると思うんですよ。生き方の問題が問われますから。

吉田氏　家族制度自体がやっぱり物凄く変容している。簡単に言えば嫁姑の関係なんて、５０年前とはまったく違う関係になっている。

林県議　今の日本の政策というか社会というか、家族を壊して「孤」になってきたでしょ。これは極めてコストが際限なく要るという話ですよ。

今村会長　僕は自分が死んだら一週間以内に誰かに見つけてもらえる社会の環を自分で築いておきたいと思いますね。今日死んで無理して明日知ってもらおうとして、行政コストに頼る必要は自分の中には無いです。

林県議　それは、今村園長さんがそういう生き方で元気がいいからですね（笑）

今村会長　終末期になったら、今自分が言っていることは言えないですからね。付き添ってくれる人がいればいいでしょうけど、孤独になることはありますよね。子供も離れるし、嫁さんも先に逝くと、たぶん私の方が先に逝くとは思うんですけれども、逆だった場合にですね。

林県議　逆は考えにくいですね、雰囲気的に（笑）

今村会長　そういうのをあらかじめちゃんと自分で意思表示をして「私の最期をこうしてくれ」と。制度としてもありますからね。

吉田氏　これから僕たちは本当に長生きするんだろうか？

今村会長　私も思うんですけど、きっと世代で違いがありますよ。たぶん、僕らは早いぞと。

林県議　僕らも長くはおらん方でしょう。

吉田氏　自分が８０歳とかで生きてるイメージがない。

・・・吉田さんのふとした一言をきっかけに、ここから健康談義に火がついた一同。その後も身近な介護から日本の未来まで議論が大白熱するのでした。お忙しい中、お越し下さった吉田さん、林さん、本当にありがとうございました！

事業報告Ⅰ

第３回スタッフセミナー
「生と死をつなぐケア　～宅老所よりあいにおける認知症ケアの実践から～」

平成２３年１０月５日（水）、今年度の第３回スタッフセミナーがピーポート甘木中ホールにて開催された。

社会福祉法人・福岡ひかり福祉会「宅老所よりあい」代表の下村恵美子氏を講師に招き、氏が同施設を立ち上げるまでに奔走されたエピソードや、利用されるお年寄りの方とのふれ合い、日々の出来事を通じて、介護現場の厳しい実情だけでなく、地域との強い繋がり、いつも笑顔にあふれた介護の素晴らしさが紹介された。

民家を改造した落ち着ける空間づくりをはじめ、お年寄りの方それぞれで違う速度やスタイルに合わせた心の寄り添いや、地域社会の視野での見守りといった、素晴らしい実績が支持され、日々たくさんのボランティアの方がサポートに集まる「宅老所よりあい」。日本における宅老所・グループホームの元祖とも言われる、そのケアの実践風景が映像等を使って多岐にわたって紹介され、会場は感動に包まれた。

下村 恵美子さん プロフィール

福岡県出身。社会福祉士、介護支援専門員。「宅老所よりあい」代表。

～略歴～

- 高校卒業後、８年間、金融機関に働く。
- 祖母の認知症をきっかけに、３０歳の時に福祉大学に入学。
- 卒業後、デイサービスセンター、特別養護老人ホームで職員として働き、1991年（平成3年）11月より宅老所を開設。
- 「宅老所よりあい」代表、「社会福祉法人・福岡県ひかり福祉会」常任理事を務める。

～著書～

「生と死をつなぐケア -宅老所よりあいの仕事-」（雲母書房）
「九八歳の妊娠 -宅老所よりあい物語-」（雲母書房、共著）
「介護現場が提案する新しい褥瘡ケア -つくらないケア・なおすコツ-」（雲母書房、共著）
「あれは自分ではなかったか-グループホーム虐待致死事件を考える-」（ブリコラージュ、共著）

事業報告Ⅰ

第４回スタッフセミナー
「こんなヒヤリハットはありませんか？ ～あなたを守る感染症の基礎知識～」

平成２３年１１月１８日(金)、ピーポート甘木中ホールにて今年度の第４回スタッフセミナーが開催された。

講師には、福岡県北筑後保健福祉環境事務所・感染症係で医師の川原明子氏を迎え、今や私たちにも身近なノロウイルスや疥癬（かいせん）をはじめとする様々な感染症について、その感染経路や治療法などの基礎知識が紹介されたほか、その予防・対策方法まで幅広い解説がなされた。

乾燥した状態を好むウイルスは、湿度の低い冬場に活性化するため注意が必要で、施設内の感染症の流行時は、まず感染源を特定して隔離すること、二次感染を防ぐために換気の徹底・手洗い・消毒の励行などが重要になることや、ウイルスの付着した（と思われる）衣服等の処理も意識的に行う必要があることなどが説明された。また、殺菌効果を謳う製品の表記について、滅菌・除菌・抗菌・消毒といった言葉の違いなど興味深い紹介も会場の注目を集めた。

意外と知られていない言葉の違い

滅　菌	すべての微生物を殺滅させるか除去すること。	薬事法の対象となる商品に使われる言葉
殺　菌	微生物を死滅させること。 ※菌全般を殺菌するが、どの程度殺菌したかには言及しない。	
消　毒	人畜に対して有害な微生物又は目的とする対象微生物だけを殺滅すること。	
除　菌	ある物質または限られた空間より微生物を除去すること。 ※微生物を殺すのではなく除去するので「殺菌」と異なる。	薬事法の対象外となる商品に使われる言葉
抗　菌	微生物の発生・成育・増殖を抑制することをいい、細菌のみを対象とする。	

事業報告Ⅱ　部会活動報告

訪問看護部会

たちあらい訪問看護ステーション　平野　美幸

訪問看護部会は、現在４事業所の参加で、定例会を今年度は年４回開催しています。拡大会議での報告、悩み、困難事例など毎回さまざまな意見を出し情報共有しています。

又、今年は『在宅ターミナル期の関わり方』をテーマに情報交換行ったり、保健師や他のステーション連絡協議会との合同部会を行い、お互いの知識、技術向上を図っています。

現在は、さまざまな疾患、さまざまな状態の方々がどんどん在宅療養に移行されています。私たち看護師も、事業所は違っても地域で連携（協力）しあいながら、よりよいサービスを提供していきたいと思います。

介護老健療養施設部会

介護老人保健施設サンビレッヂ朝日ヶ丘　今村　里香

介護老健療養部会は７事業所で組織されています。今年度の活動は事務長会、職種別部会、研修会、さらに今年度発足した朝倉食文化を学ぶ会などを行っています。

7月26日の職種別部会では看護、介護、リハビリ、栄養、相談員・介護支援相談員の５つの職種に分かれ現場で抱えている問題や改善策などを話し合いました。同じ老健の職員同士、活発で貴重な意見交換会となりました。また、今年の研修会は11月29日「認知症高齢者とのコミュニケーション」をテーマに小規模多機能ホームくましろ弐番館小規模多機能担当課長小谷川江津子氏を講師に迎え開催いたしました。施設の規模や形態は違いますが、現場で日々奮闘されている様子や具体的な事例を交えながらの90分の講演は大変興味深く、会場に集まった約120名の職員は熱心に話しに聞き入っていました。（写真左）

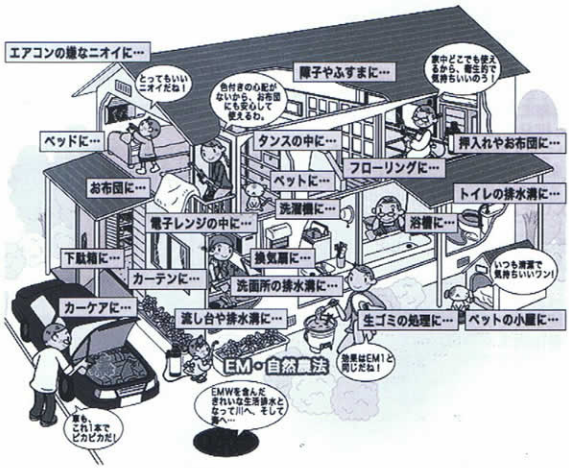
「あさくら食文化を学ぶ会」では２カ月に１度会合を開催しています。朝倉地区の郷土料理や食に係る行事、伝統や言い伝えを学ぶことで、利用者様に馴染みある食事の提供ができると考えております。情報を持ち寄りレシピ集を作成しようと活動しており、各施設の栄養士は、行事食や手作りおやつ作りに活かしております。またこの会合は栄養士間の情報交換の場ともなっております。今後も継続し専門職としてのスキルアップに繋がるような活動として積極的に取り組む予定です。（写真右）

このように各施設間の交流を通じ、地域全体でより良いサービス提供が可能になるよう今後も活動したいと思います。

Hobby Box

～ 最近、ＥＭ菌にハマっています ～

宝珠の郷　ケアワーカー　和田　千恵子さん



画像提供：ＥＭＷ活用術［㈱ＥＭ研究所］
http://www.emlabo-emw.com/

ＥＭ菌とは有用な微生物の集まりの事で有機物を発酵させ、役に立つ物資を生成し、また、その環境を浄化する力を持っています。主な使用例としてトイレの臭いとり、流し台のヌメリ取りなどがあります。又、ＥＭ菌は薬剤ではなく肌についても、口に入っても無害なので、食器洗いや洗濯物、シャンプーにも使えます。

友人にこのＥＭ菌の事を聞き、半信半疑で使って見た所、その効果の凄さに驚きました。今では他にも使えるのでは？と色んな資料を見ながら新たな使い道を探ってます。自分の普段の生活にも環境汚染の原因が潜んでいる事を意識し小さいことから行動していく事と思い私なりに環境問題に取り組み、自己満足している今日この頃です。

皆さん！！気軽に楽しくＥＭライフを過ごされてみてはいかがでしょうか。

My Way

たちあらい訪問看護ステーション の 平野 美幸さん

今回の紹介者は「グループホーム弘医荘　吉川 幸子」さんです。

たちあらい訪問看護ステーションの平野美幸さんを紹介させていただきます。

平成12年、介護保険事業スタートと同時に、平野さんは訪問看護、私は訪問介護と同じステーション内で異動に共ない一緒に働らくことになりました。

親子の年の差ですが、いろんな苦難をのりこえられる時は、涙顔。でも笑顔の素敵な平野さんです。私の心が折れそうな時、あのやさしいまなざしで『ファイト！！』と声援を送ってもらいました。

そんな中、平野さんは病棟の看護師、私はグループホームと別々の職場に…しかし、今年２月から訪問看護師として生き生きと背筋まっすぐで訪問に出かけられる後姿に心から声援を送っています。

これからも楽しく元気で仕事ができる様に素敵な笑顔で頑張って下さい。

次回は平野　美幸さんからのご紹介で　太刀洗病院（通所リハビリ）の 飯田真由美さん です！

■訂正とお詫び■
第37号の介護スタッフリレーコラムのお名前が「朝倉健生病院　訪問看護士野中加代子」さんとなっておりましたが、正しくは「サンビレッヂ朝日ヶ丘介護員　田中　正一」さんでした。訂正してお詫び申し上げます。

介護スタッフリレーコラム

「平成23年度北欧・欧州高齢者医療・福祉研修団に参加して」

介護老人保健施設　サンビレッヂ朝日ヶ丘　介護員　田中　正一

10月2日から12日までの11日間、北欧・欧州高齢者医療・福祉研修に参加しました。駆け足の旅でしたが、デンマーク・スウェーデン・ドイツ・フランスと４カ国の現状を自分の目で見て肌で感じる機会をいただきました。福祉先進国と言われている北欧では「可能な限り自宅で自立した生活を送ること」を目標に様々な取り組みが行われていました。
デンマークとスウェーデンは、高い税金を払い国民全員が安心した老後を迎えることができるという点で日本とは大きく異なります。しかしながら、市民全員で構築してきたこの高福祉高負担というシステムに対する国民の理解の深さと誇りを感じました。

また、日本に次ぐ高齢社会であるドイツでは、いち早く介護保険制度が導入されましたが、退院後の高齢者の在宅支援に対しては日本と同じような問題を抱えている印象を受けました。研修中、ケルン市では選挙で選ばれた高齢者団体の方々と意見交換をする機会がありました。彼らは高齢者の視点でのよりよい市民生活のための意見を取りまとめ、市や州の議会に反映させるシステムを確立されていました。ボランティアとして社会的役割を積極的に担っている姿勢にドイツ国民の強い行動力を垣間見る事が出来ました。

フランスでは在宅治療、在宅入院、開業訪問看護など「自宅で病院と同じような治療を受ける事ができる体制つくり」「５０年、６０年と住みなれた家に住み続けたい」というフランス人の「家」に対する強いこだわりが裏打ちされた制度がありました。また「口から食べられなくなったら医師の仕事は終わり、以後は牧師の仕事」という終末期における医療の考え方も明確で、安易な胃瘻は絶対に行うべきではないという医師の言葉が心に残りました。

総じて、今回訪問した施設のケアスタッフは、穏やかで笑顔にあふれ非常に落ち着いた対応をされているという印象を受けました。また、ケアスタッフは認知症高齢者に対する理解が深く、個性を「認めること」「受け入れること」を心がけておられました。その結果、利用者の方々は自分のスペースを大切にすることができ、自分の生活リズムや個性を持ち、穏やかに生活しておられるように感じました。同じ仕事に携わるものとして是非見習いたいと思います。

この視察研修を、ただの経験で終わらせることなく、「今の日本の抱える現状の中で、スタッフも利用者も共に自然と笑みがこぼれるケア・システムの構築」を目標に取り組みたいと思います。

末筆となりますが、今回、私にこのような大きなチャンスを与えて頂きました施設の皆様方へ深くお礼を申し上げたいと思います。

徒然日記

香月病院　E・H

～ 宝くじの魅力 ～

宝くじは、日本において『富くじ』として発祥しました。その起源は、江戸時代初期に現在の大阪府にある瀧安寺で、正月に僧侶が３人の当せん者を選びだし、幸福をもたらすとされるお守りを授けたのが由来とされています。

当たる確率が低いとわかっていても、宝くじを買う人があとをたたないのはなぜでしょう？

宝くじは『１等３億円』のように当選金を狙うことができます。

人は還元率などの数字を客観的に考えるよりも、夢を狙うのが好きなのかもしれません。事実、宝くじでは当選者の数が少なく当たる確率が低くても、１等の金額が大きければ大きいほど人気を呼ぶようです。

せっかく買うなら当たった方がいいですよね。その為に皆さんは何かしていますか？

過去に高額当選を果たした人の７割が験担ぎをしており、購入方法、保管方法にもこだわりがあったようです。

調査結果によると、当選した宝くじを購入する際に、何らかの験担ぎをした方が73.7%に達していました。

最も多かったのは『良いことがあった時に購入する』が10.8%で、以下、『お参りにいく』7.7%、『特定の色を持つ』6.9%、『トイレや部屋の掃除』6.0%などです。

購入してから抽選までの保管場所について尋ねると、中には、冷蔵庫と答えた人も1.2%ほどいたそうです。

験を担いで、皆さんのところにも福の神が来るといいですね。当たりますように。

編集後記

2011年は本当にいろいろな重大ニュースが飛び交いました。国内では東日本大震災、福島第一原発事故、海外ではタイの大洪水やギリシャ危機、アップル創始者スティーブ・ジョブス氏の訃報など、世界中に影響を与えた出来事が数多く、振り返ると暗い内容が目立ちますが、その中でも光り輝く吉報「ホークス日本一」「なでしこジャパン世界一」などは、今もその興奮が思い出されます。2012年は、その勢いを忘れずに、皆さんにとっての前進や挑戦といった前向きで素敵な一年になれば幸いです。元気な日本、元気な福岡で頑張っていきましょう！（藤原）

事 務 局
朝倉介護保険事業者協議会　事務局
〒838-0814　福岡県朝倉郡筑前町高田2311
特定非営利活動法人　武光福祉会
TEL (0946)22-9743　FAX (0946)22-5465

編集 ／ 発行所
朝倉介護保険事業者協議会　広報部
〒8380-0228 福岡県朝倉郡筑前町二242-17
（有）咲楽 介護用品ハーテック
TEL (092)926-8109　FAX (092)926-8109
印刷／井上総合印刷株式会社